

平成七年度

四十七 主さんとおま
置ごたつと 蓼 胡文雄 史ま由

四十八 三千歳 柳 古柳 白扇 夕樹夫

四十九 散りかかる 田家松 小峰 蓼 胡文雄

平成六年度

五十 待宵月 蓼 胡満和 胡満和代 和多加

五十一 桐の浅草 蓼 胡茂 茂和香

平成五年度

五十二 落人の色香 吏美 いち絵 春竹 利昭

五十三 酒が言わせる 松峰 照 松峰 照香

五十四 気に入らぬ 扇 よし和 替扇 和弓

当日の審査員 菊地満佐 蓼 胡満佳 蓼 津留葉 松峰 照 栄 由利 蓼 胡茂

■平成二十八年十二月四日(日) 午後十二時開演
■東京証券会館ホール (地下鉄東西線・茅場町) ☎(三六六七)九二一〇

主催・公益社団法人日本小唄連盟

<http://kouta-renmei.org>

第二十六回 若樹会

ご挨拶

師走の候、皆様お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。扱、日本小唄連盟若手育成事業の一環として平成三年に発足致しました小唄「若樹会」もお陰様で本年は第二十六回を迎え、これからの小唄界を担う若手の登竜門として定着し益々充実した内容となりました。日本小唄連盟は、この会が若い方々の研鑽の場となり、一人でも多く、すぐれた演奏家が誕生することを念願いたしております。皆様様におかれましては、この「若樹会」を温かくお見守り下さり、格別のご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

平成二十八年十二月吉日

公益社団法人 日本小唄連盟

一部（糸の審査・太字）

一	中洲の雨	井筒 治幸滋 西尾 由佳
二	やくのは野暮	堀 小よ寿々 堀 小よ寿彩
三	凍る夜	峰村 好若 峰村 好志乃
四	滝の白糸	吏美 いち絵 本木 寿以和
五	鶯の里	井筒 治幸滋 井筒 幸和
六	年の瀬	花菱 は満朝 花菱 朝佳
（唄の審査・太字）		
七	田村	原田 好 田村 彌笑
八	八重一重	高橋 香代子 堀 小い幸
九	柳橋から	井上 紀恵 田家松 小峰
十	散るは浮き	鳥羽 由記 春竹 利葉
十一	上汐	不二 小りん 不二 小みち
十二	曾根崎	菊岡 弘優 吏美 いち絵

二部（若樹賞受賞者・太字）

平成二十七年		
十三	佃ばやし	蓼 佳ほる 蓼 佳壽樹
十四	裏のせとや 甘いかのろいか	扇 和鼓 扇 和弓
十五	中州河岸 並木駒形	扇 美晴 春竹 利香
十六	辰巳やよいとこ 初出みよとて	田村 成美 田村 彌笑
平成二十六年		
十七	勢い肌	菊岡 弘優
十八	勝名のり	長生 松代 長生 千代由
十九	辰巳の左袂	本木 寿以和 吏美 いち絵
二十	美代吉	蓼 満ゆ佳 蓼 胡満利
二十一	浜町河岸	春竹 香燕 春竹 利香
平成二十五年		
二十二	富士見西行 戸田の局	小唄 幸三希 小唄 幸三由
二十三	いい人は ほんのひとちよこ	扇 和塩 扇 よし和
二十四	浄るり舟	柳 和加丸 柳 古代和加

平成二十四年度

二十五 傘の内
柳 古美糸乃
柳 古柳

二十六 色気ないとして
思い叶うて
春竹 利央
春竹 利昭
替 春竹 利保

（唄）平成二十三年度
（糸）平成二十五年度

二十七 満月や
花菱 朝如
花菱 は満朝

平成二十一年度

二十八 露深き
井筒 幸和
井筒 幸一

二十九 十六夜
春竹 利保
春竹 利昭

平成二十年度

三十 向う通るは
浅草詣り
田村 彌笑
蓼 鈴緒

三十一 春のたんぼ
もやい舟
小唄 幸三由
小唄 幸三希

（唄）平成十八年度
（糸）平成二十五年度

三十二 磯の月
三千世界の月
長生 恭帆
長生 松帆

平成十六年度

三十三 いざさらば
わしが思い
蓼 時あや
蓼 胡満佳乃
替 蓼 佳壽樹

三十四 筆のかさ
和敬 梅由
和敬 由三郎

平成十五年度

三十五 山中時雨
常磐 とも米
常磐 まさ米

三十六 昔は昔
時雨して
蓼 房まさ
蓼 房まさ香

平成十四年度

三十七 三社祭
長生 松代
長生 代一郎

三十八 心でとめて
土手を通る
菊岡 弘多枝
菊岡 弘弘
替 菊岡 弘香

平成十一年度

三十九 木枯の
雪のあしたの居続け
松峰 小玉
松峰 照

四十 お坊吉三
和敬 由三郎
和敬 梅由

平成十年度

四十一 晩に忍ばば
権見堂
松峰 弥生乃
松峰 照
替 松峰 照香

四十二 白の前だれ
紺の菊
蓼 史ま由
蓼 胡文雄

四十三 しめろやれ
葛木 伸子
白扇 夕樹夫

平成八年度

四十四 青いガス灯
春竹 利香
春竹 利昭

四十五 宵のなぞ
蓼 鈴緒
蓼 胡文雄

四十六 心で帰やし
夜桜や
井筒 綾奈美
井筒 綾美佐